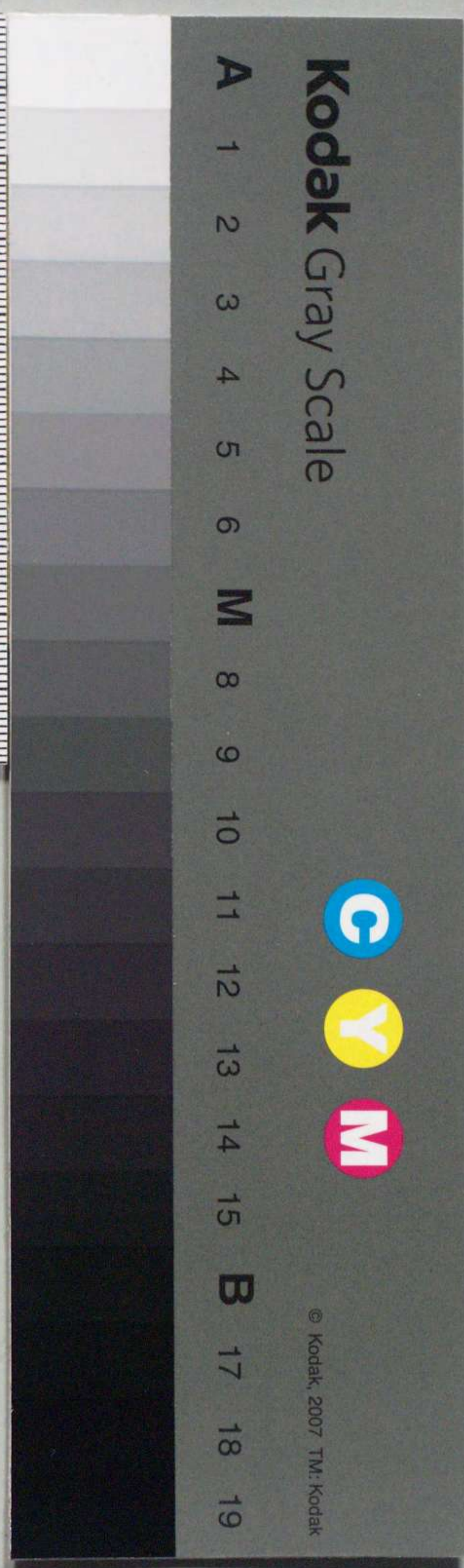


寛永諸家譜

藤原氏乙二冊之内二
良門流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (86)
函號	76 1





井伊

寛永諸家系圖傳

藤原氏

良門流

井伊

乙二 小家

大織冠三代

房前

真楯

内麻呂

冬 嗣

閑院 右大臣

淺草文庫

良門 りょうもん

冬嗣六男 内舍人 中納言

利基 りき

内舍人

右中納言

高藤 たかふじ

初修寺

内大臣

利世 りよ

去良 きりょう

去清佐 きよさけ

少納言

良春 りょうはる

左人頭

良宗 りょうむね

筑前守

去賢 きけん

内中守

左一 左二 左三 左四 左五 左六 左七 左八 左九 左十 左十一 左十二 左十三 左十四 左十五 左十六 左十七 左十八 左十九 左二十 左二十一 左二十二 左二十三 左二十四 左二十五 左二十六 左二十七 左二十八 左二十九 左三十 左三十一 左三十二 左三十三 左三十四 左三十五 左三十六 左三十七 左三十八 左三十九 左四十 左四十一 左四十二 左四十三 左四十四 左四十五 左四十六 左四十七 左四十八 左四十九 左五十 左五十一 左五十二 左五十三 左五十四 左五十五 左五十六 左五十七 左五十八 左五十九 左六十 左六十一 左六十二 左六十三 左六十四 左六十五 左六十六 左六十七 左六十八 左六十九 左七十 左七十一 左七十二 左七十三 左七十四 左七十五 左七十六 左七十七 左七十八 左七十九 左八十 左八十一 左八十二 左八十三 左八十四 左八十五 左八十六 左八十七 左八十八 左八十九 左九十 左九十一 左九十二 左九十三 左九十四 左九十五 左九十六 左九十七 左九十八 左九十九 左一百

共保

井坪此元祖 備中大友 法名寂明
家傳了いいまく共保い一條院此沛
字うり井中か中の里ら化け現げんの人ひとあり
をとりま井か岩の八や幡は文ま瑞み籬かき乃なり
りりはは神かみ田たありり此こ田たののかかととりりは
沛いのの洗せん井いありり正月しげつ朔しやく日のひ物もの神かみ主ぬし
社やしろ参まゐせりじじ乃なとと記きたら向むからり

赤子此井中あかこよりま出生しうしんとと記きととり
ろろ乃な子こ容よう顔げん美み靡みりり一いく
眼まなこ睛まはありり神かみ主ぬし奇ま一い矣い
乃なちちいいををかか一いりり記きくく家いへは
くく毎まいもも子こ此こくく美みのの育よくとと目めを
ををいいくく人ひと中ちゆうああわわととてて七しち歳さい小
ととりり備び中ちゆうもも記きててこれこれを
奇またたももとと一いいいくく井い女め子こありり
てて男おとこ子こああのの心こころやや一いかかいいく

おれを子也寸十五歳よりして
去保とあつてもふらら若實がじとめ
をさきり嫁せしむ壯年よとよひ
て若人よりあえ曾武臨備也
り終の世は郷人としてくはこれよ
あさひあふぎく主君と寸後を
備中大夫と号し一類父乃氏を
相續せりりるる後原と稱し
井より出生せり乃拵へ井柵を

よりく旗幕此紋と去保出生乃
と記井乃とては橋一顆ありけ
中一神主橋と名づく去保が
産後乃級りはあつらひにせり
もも今より若あつて橋と衣類
乃級中を記たり出生せり亦乃井
いふにを記くことあり

共家 ともいへ

井伊内中次郎 かゝいうちじらう

子江守 かゝいしゅ

共直 ともぢ

井伊九郎

子江守 かゝいしゅ

惟直 ただぢ

井伊新次郎 かゝいしんじらう

盛直 もりぢ

井伊太郎

赤佐太郎 あかすけ

良直 りやうぢ

井伊次郎

俊直 しゅんぢ

赤佐太郎

井伊奥山乃祖 かゝいおくやまのそ
たしびり

政直 まさただ

升伴早田井伴八郎井伴を以て
直朝ちかのちか後直ちかが子孫なり

貫名早郎 ぬきなり 貫名乃祖 ぬきなり

直行 ただゆき

貫名早郎

直友 ただとも

六郎 むさし 貫名乃祖 ぬきなり

沐直 ゆきただ

井伊左衛門尉

恭直 きよただ

井伊次郎 左衛門尉

直家 ただけ

六郎左衛門尉 田中乃祖

貞時まこと

四郎右衛門尉

井年乃祖いのし

忠村むねむら

右衛門尉

岩津の祖いわつ

淨覺じゆんかく

土佐房

石見此祖いみこ

貞道まこと

左衛門尉

田澤乃祖たざわ

貞材まこと

六郎

松田此祖まつだ

行忠ゆきただ

井伊右衛門太郎

貞助まこと

左衛門次郎

井伊之野乃祖いのの

井伊彈正左衛門忠秀の祖いいでんしょう父なり

忠秀討死乃後子孫ちゅうしゅうついで

系直 けいぢく

井伊彦太郎 いひこ

忠直 ちゆうぢく

井伊彦太郎

忠藤 ちゆうとう

井伊彦太郎

忠乃祖 ちゆうのそ

直氏 ぢくぢ

井伊彦太郎

忠房 ちゆうぼう

之郎

中野の祖 ちゆうの

忠平 ちゆうへい

井伊修理亮 いひのそけい

信濃守 しんのうのまもり

直宗 なほむね

井伊之内少輔 いひのちのせうぶ

直盛 なほもり

井伊俊茂守 いひのつとむり

直宗之嫡子 なほむねのちかご

尾川桶狭間一とむく今川 おぐわい けいけい ひとむく いまがは

義元也一はよりら死 よしかみ ひと ひとよりら し

直満 なほみち

井伊直満 いひのちみち

信濃守直盛嫡子 しんののりょう ちかご

直満が子直親 なほみちのこ ちかちか

此これの家督 こゝの家とく

ひの直親幼少 ひのちかちか ちかご

せしひる せしひる

和泉守 いづみのり

今川義元 いまがはよしかみ

天文十三年 てんぶんじゅうさん

後府あふをひく傷害けがせしむ

忠親ちか

井俣肥後守いごのり

父ちち長次郎忠満ちかみちと文十ぶんじゅうに傷けが害がい

乃すなはち忠親ちか九歳ここのへあり家人けいじん今村いまむら

友七ともなな席せきふれをいづまいづまく信長しんちやう俣は奈な

りりをいづまいづまく数年とほね井い治ぢり

いづまいづまく乃すなはちるるままくとめとめく

奥山おくやま同懐どうくわい守しゅをこのこの弘治こうぢ元年げんねん忠親ちか

二十歳にじゅうさいののとと井い治ぢりり

奥山おくやま同懐どうくわい守しゅがが知し事じ也やふふ親おや

永禄えいろう二年にねん今川いまがわ義よしか元もとらら死しのの後ご

同どう五年ごねん忠親ちか

東照とうしょう大権たいけん現げんりり通とほりりくく内うちつつ里り

隠かく深ふかををくくるるたたののりり一いち取と光みつ小野おの

但た守しゅ今川いまがわ氏し真まりり澄すみりりととててよ

傷けが害がいりりををいいづづままくくれれじじのの氏し美み

傷けが害がいりりををいいづづままくくれれじじのの氏し美み

えいこの さよのを
の二門新野た馬助これをさうく
忠親と隠謀ふと御りといひ
ゆるす御まともく後府り池ゆく
そのあやにを列の守護代物法宗
備中も越川よをひく忠親と傷
害せしじ

忠政

井伊右部少輔

臺名百千世

よーわけ トダ
戻り位下侍従
永禄五年父肥後守忠親傷害の少
忠政よりふ二歳なりすくは死飛よ
をよぶ色なのこしりり新野た馬助
ありりく一命をさひけたる物家
りなむく子とむりく養育せら
る

同七年を列河内河内の淡路乃城之飯尾忠前守
が今川氏去り射しく叛逆のとき

新野たる助討色也しんのくら後向せらめ
とふららうらたすられと記し也政しは
歳ありたる助けが後家けな紙か格かく育いくする
乃こらりゆいて氏し去りたはらひ
也らこのと記したる助けが叔父しやくふ淨去寺じやうその
和尚わうしやうりあこへ出家しゅっけせしじたのり
ここくつ井いりせ政せいをいひさす
その日淨去寺じやうそりをらりくく出家しゅっけと
なり

同十一年今川氏去らは落らくれ時とき也政せい
八歳なり淨去寺じやうその和尚わうしやうりあこへ格かく而ら
乃僧しやう珠しゆ源げんと乳母ちちと二人ふたり負おく二列れつ
鳳来寺ほうらいじりいげうれし中ちゆう里り遠えん列れつ
濱はま去きりいつた也政せいが母はは乃ならり
松下源太郎かたりた塚づかといひしり
ももくく源げん宗むね師しが家いへりいつり也
子こといひし也
天正三年也政せい十じゆ八はち歳さい乃なり也

乃と地武田家来此ゆつゝひ一糸
山縣土屋原田經乃士率をつりし
能地四万石となすゆりく一經乃將と
あは

天正十二年尾州長久手合戦の時
武政二十四歳りあは御旗本先
平乃將とあは

同十六年秀吉聚楽乃亭り
り幸乃と地後五位下小叙り

侍後り經と秀吉の供奉りりく
殿之乃宴席りり作り
寄和祝とよ歌をたりり和歌一
首を献り

同十八年秀吉相州小糸一族と退
治せられくゆり園東と

大権現りりちんぞと地此とさこ之野
のふよをひく能地十二万石武政よ
たゆりゆあちら真備此城よ此と

うねらら 衆とて同此うら
高乃城を築て之より居す
是又長五尺九月十五日徳列 園原
合戦乃とき敵とくく決戦す
同九月十七日石田治部少輔之成が
其城信和山没落し石田一族滅
亡す

同十月

大権現大坂乃御城よりしつせしれ天下

一統乃うへ諸將よめく園郡と封せ
らねらら 変政と 津前りめく
そ下乃大戦をあしひ度い先手
乃將とて勝利をたす事満とよ
園郡乃元勳ありあれりしは
今度の敵乃石田治部少輔が其味
あしびりかの領地ををを變政よ
たまるる乃しひ 師にされ佐和安
城同の別りしとひく領地十八百石

洋賜と

聖年正月入部也一り此也
河内信下と叙せられた

同七月二月四十二歳りて卒寸

法弘祥壽院 清涼泰安

聖政卒とく乃ら同九年のま

台命りのゆと信和山乃城地

より一りかぶる乃あひこれと

根山りうつと一りこまつら

市人衆 信付とせ石壁を高

沿邊を深とくあつて城と築

ををせと

ををせと

聖勝

升伴右近大夫

之列安中一りて城地二百石

聖政鳥願乃うらなを

丞之いんせ

井伊兵部少輔

丞考いんせ たら

井伊掃部頭 没口位下 侍従

右近衛少将

孝文公の丞考十四歳乃と記

大権現を存いんしつてまつらふ

教命けいめい有りしに

台座院殿より此久しくまふ家

同十五歳と列おりなまひく領地一

万石を存賜たと

同十七歳丞考二十四歳乃と記

幼命わらわめいをうし少里沖菑いん病とあつり

伏見の沖城いん菑を以て

同十九歳の冬大坂御陣いん乃と記是

丞考いんせ江戶より惟いと病者いんと記

是いんより川い列いん産根山いん乃

人^{ひと}枝^{えだ}を^をめ^めつ^つれ^れ急^{いそ}連^づり^り忠^{ちゅう}孝^{こう} 衆^{しゅう}
陣^{じん}と^と危^{あや}ま^まの^のひ^ひの

大^{だい}権^{けん}現^{げん}を^をし^しひ

台^{たい}座^ざ院^{えん}殿^{でん}の^の嚴^{げん}命^{めい}を^をか^かり^り伏^ふ見^みの^の御^ご

城^{じやう}より^{より}大^{だい}坂^{さか}り^りゆ^ゆり^りと^と急^{いそ}急^{いそ}せ^せし^し

大^{だい}此^しと^と忠^{ちゅう}孝^{こう}二^に十^{じゅう}五^ご歳^{さい}あり

大^{だい}和^わ大^{だい}子^しの^の末^{まつ}府^ふよ^よと^とひ^ひく

大^{だい}権^{けん}現^{げん}の^のお^おり^りの^のこ^こし^しく^く兄^{あに}忠^{ちゅう}務^む
病^{びやう}者^{しや}と^とる^る大^{だい}あ^あひ^ひの^の父^{ちち}忠^{ちゅう}政^{せい}が^が家^け督^{とく}を^を

忠^{ちゅう}孝^{こう}相^{さう}續^{じき}と^とふ^ふの^の旨^{しみ} び^びか^かせ^せし^しこ^こ
新^{しん}中^{ちゅう}い^いる^るも^も天^{てん}備^び北^{ほく}序^{しよ}を^を祀^{まつ}る^る
乃^な海^{かい}い^いる^るあ^ある^るへ^へな^なや^やと^と安^{あん}慶^{けい}帝^{てい}の^の忠^{ちゅう}決^{けつ}
を^をま^まつ^つく^く母^{はは}こ^こり^りと^とひ^ひく^く辭^{こと}
なる^{なる}い^いと^とも^もと^と忠^{ちゅう}と^とせ^せり^り決^{けつ}
遠^{いん}背^{せい}と^とく^くし^しの^のり^りと^とく^く
教^{きやう}命^{めい}を^をか^かり^りお^おた^たら^らふ^ふゆ^ゆと^と辭^{こと}
と^とら^らあ^あく^く 忠^{ちゅう}命^{めい}り^り無^む一^{いつ}た^たて
ま^まる^るろ^ろれ^れと^と忠^{ちゅう}政^{せい}が^が領^{りやう}地^ち十^{じゅう}八^{はち}万^{まん}石^{せき}の

うらと列安中り一をひく二万石
乃地を坐勝り一たすつれ坐落を
父坐政が家督するありて産根
山の城より一り領地十五万石と
たす

同日五月六日七日あ度の沖合戦り
昂日大坂乃城没落と

大権現

台徳院殿沖海落あり

同七月領地沖加増して江列り
とひく五万石を存賜と

同五年

台徳院殿沖之落乃と起るより一領地
五万石江列りとひくくく一す

寛永二年二條乃沖城り
行幸の
とさ右近清井ゆり候と

同十年

將軍家より領地五万石をくつ一属り

巫流マユ

江列ありびり野列佐野武員勢多
谷よりひく都合二十万石と候知
江列有根山此城より始む

井伊親負イデノチカ 江田信下エタノシノ 侍従シロシ

巫寛マユ

辨ハ之ノ介ケ

巫繩マユ

千チ之ノ介ケ

巫澄マユ

亀カメ之ノ介ケ

家イヘ此ノ紋モノ 檣チカラ

旗ノボリ幕カマ乃ハ紋モノ 井イ榊サカキ

